

令和4年4月19日(火)

【第23回北陸地域連携プラットフォーム】

質疑・意見交換

【司会】

続きまして、質疑・意見交換に入りたいと思います。

先ほど御講演いただきました森田室長様、竹部様に対する御質問、または、今の北陸財務局の御説明の内容に対して、北陸地域においてどのように取り組んでいくのが望ましいかについての皆様から御意見をいただければと思います。

【メンバー】

鳥取県の森田室長のワーケーションのお話に関連して、福井県を訪れていただいた方に少しでも長く滞在をしていただき、地域の良さに触れる機会をどれだけ創出するか、関係人口をどれだけ増やすかがキーになるということを前回のプラットフォームでお話ししたと思います。

ここで福井県の統計を1つ御紹介します。福井県を訪れた観光客やビジネスマンのうち、3時間以上滞在された方が全体の何%かという調査です。結果は7%、つまり9割以上が3時間以内に福井を出ているということです。

これからの福井県は、北陸新幹線の延伸もありますし、この現状を踏まえて、我々も考えなければならないことがたくさんあると感じています。

鈴木管理官や竹部代表もおっしゃっていた通り、1つ目に今あるものをどう磨き上げるか、どうコンテンツ化するか、どうやって魅力あるものとして見せていくかという、コンテンツの再編集について、2つ目に効果的なプロモーションについて、そして、3つ目に地域間でのA Iや二次交通を含めた広域連携について、私はこの3つを整理して、福井県全体で考えていく必要があると思っています。

以上です。

【司会】

ありがとうございます。ほかに御意見、御質問などございませんでしょうか。

【メンバー】

今日のお話の中で、人口減少と働き方改革のありようということに対してどうするかというときに、テレワーク、ワーケーション、副業・兼業ということ 키워ドにお話しされたと思います。

ですが、福井県は幸福度日本一と言われてはいますが、人が流出し続けています。この一番の原因は、地方には働きがいのある企業が少なくて、これが問題の本質だと思います。特に、女性は出ていくとほとんど帰ってこないということが現実起こっていることで、いかに地方で働きがいのある企業を作ることポイントだと思います。経産省などの省庁にどんどんお金を出して、それで企業を育てるということですが、財務省が一番得意なところではないかと思ひます。お金を使わない形もいいのかもしれませんが、それが本質のような気がします。

最近、ブラック企業は大分改善されてきて、ホワイト企業が増えてきているということなんですけど、ブラック企業もホワイト企業も離職率は大体一緒です。これは何故かというとそのホワイト企業でも自分のキャリアアップができないということで、自分が将来駄目になると感じている人が多いということなんです。

従ひまして、企業においてしっかりと社員の働きがい確保することが大事なんですけど、やはり各県でも、本当に働きがいのある企業を育てていくことが重要だと思ひました。

以上です。

【司会】

ありがとうございます。まさに竹部さんがおっしゃられた地元にある産業とやっけていくというようなところにもつながる御意見かなと思ひました。

ほかに御意見、御質問などございませんでしょうか。

【メンバー】

私も竹部代表の説明のパワフルさに圧倒されました。当行の人事部の研修担当者に研修に行ってもらいたいと思ひますが、半年先の予約はできますでしょうか。

【竹部代表】

お待ちしております。

【メンバー】

ありがとうございます。

テーマの北陸地域における人の流れを創出するという点について言えば、皆さん御案内のとおり、北陸地域には食、文化、自然、歴史等、魅力がたくさんあります。その魅力を上手に発信していければ人の流れを作れると思います。なおかつ、北陸新幹線が2024年に福井までつながればより首都圏と近くなるので、本当に近いということは大事だと思います。北陸地域に来ていても、万が一何かあったらすぐ戻れるという安心感が非常にメリットだと思うんです。

竹部代表のお話の中で私が一番共感できたことは、副業、兼業にも通じる場所だと思いますが、我々が人の流れを創出する目的とか狙って何だろうって考えたときに、我々が都市圏などと交流して刺激を受けて視野を広げて、よりチャレンジングにやれる、それが働きがいのある企業にもつながっていくことだと思います。そういう目的を前面に出しながらいろんなことを考えていくということも必要と感じました。

以上です。

【司会】

ありがとうございます。ほかに御意見、御質問などございませんでしょうか。

【メンバー】

私ども金融機関は、地域の状況を見て、様々な形で仕事をしております。例えば、能登地区では昨年度、のとSDGsファンドを作りました。現在、4件の事業に対して出資しており、この出資によって地域の活性化を図っていきたく思っておりますが、こうした事業がコンテンツになりうるのではないかと思います。

具体例を挙げますと、能登町に漁具を研ぐ鍛冶屋でインターネットを上手く活用した事業をされている方がいます。そちらの方はインターネットで事業を拡大し、新しい雇用を生み出していますので、のとSDGsファンドにふさわしい事業ではないかと考え出資しています。

また、珠洲市で競走馬を引退したサラブレッドを活用して、子供さんとか障害者の方に例えば乗馬体験や、サラブレッドに触れたりするような体験をさせて、セラピーを行うという事業者の方がいらっしゃいますので出資を決めました。

のとSDGsファンドは、当行のほかに、興能信用金庫様やのと共栄信用金庫様も出資

されており、この能登地域において雇用の創出や観光コンテンツに生かされるであろう先を選んで出資しています。

ですから、例えばワーケーションに該当するかもしれませんが、観光と乗馬と仕事といった形でできればいいなと思いました。

ワーケーションのコンテンツとしてストーリーをつくるのは簡単にできるものではないかもしれませんが。ですが、行政、地域住民、企業、地域の商工会が協力すればできると思います。引退したサラブレッドを引き取る事業者についても、地元の方や行政が協力してくれればいいコンテンツになると思いますし、地域全体で取り組んでいける1つのモデルになるんじゃないかなと思いました。

一つ一つそういった形で交流人口を増やしていければなという思いがありましたので、お話しさせていただきました。

【司会】

ありがとうございます。ほかに御意見、御質問などございませんでしょうか。

【メンバー】

鳥取県の森田さんに質問させてください。

テレワーク移住等は、専用のウェブサイトを作ったりしながら、様々な自治体が一生懸命取り組んでおられると思いますけれども、例えば、ワーケーションについて現場の肌感覚で一番高い壁と感じたり、難しいと苦労したような点をお聞かせいただけないでしょうか。

【森田室長】

ワーケーションについて言いますと、やはり他地域との差別化が難しいと思います。例えば、鳥取県ですと日本海側で海、自然、温泉があるということになりますが、これだけではなかなか他との差別化が難しいと実感しております。

現在、企業様のニーズとして、研修合宿、半分業務のようなワーケーションにかなり御関心を持たれていますので、今後、強化していく必要があると感じています。

また、先ほどファミリーワーケーションのお話をさせていただきましたけれども、実際に御家族の皆さんに鳥取県の暮らしを体験していただいて、将来的には移住につなげていくことで、他地域との差別化が図れると考えており、ファミリーワーケーションを今後も

進めていきたいと思っています。

【司会】

どうもありがとうございました。そのほか、御意見ある方いらっしゃいますでしょうか。

【メンバー】

森田室長のお話を聞いて思ったことは、自治体が結構熱心な一方、企業側は冷めていることです。テレワークを実施した企業は大体4割近くいますが、ワーケーションになるとその10分の1程度。どうしてもテレワークという在宅勤務という発想があって、自宅以外で仕事をするところまでが仕事でどこまでが遊びなのかという、その線引きが非常に難しいと思います。

従いまして、日本の労働文化を変えていく必要があるので、少し時間がかかるだろうなと思います。

ただ、コロナ禍でテレワークというものが本当に一気に進んだので、今後、やりよう次第で企業も労働文化は変えていけると思います。

また、鯖江の竹部さんの話も大変興味深く聞きました。今あるものを磨き上げて見せていくことは、もうどこでも通用する地域振興の教科書みたいなものだと思います。そういう中で、企業研修というものに取り組みされており、非常に目のつけ所がいいなと思いました。B to Bのよい商売になるというふうに思います。

それを石川県に置き換えた場合、コロナで駄目になりましたけど、石川県はMICEを積極的にやっていて、企業の研修や学会、さらには国際会議、こうしたものを誘致するというをやっていました。

金沢市は、宿泊施設が充実していて、研修旅行の行き先としても人気があります。そういうバックグラウンドの強みを生かすために、このMICEのテコ入れをもう一回やり直す必要があると思います。

それから、金沢でいうと、修学旅行の行き先として人気が出てきました。また、江戸時代、明治、大正、昭和の時代から、21世紀美術館のような個性的で近代的な建築物まで、いろんな時代の建物があります。これらは大学の建築学科の学生には非常に魅力的で、視察に来る例が増えています。

こういうふうに、今あるものを先ほど竹部さんがおっしゃったような視点でもっと探して、それを深掘して、新たな魅力あるコンテンツにして提供していくことができる

かなと思います。そうすれば、もう一度活力を取り戻すことが出来るだろうし、金沢であれば、金沢のファンを増やすことが出来ると思います。

修学旅行に来てくれた高校生は、大きくなったらまた来てくれるだろうし、企業研修で来てくれた人は、ああ、いいところだなと思って今度は家族で来ようかということでもた来てくれる、そんなリピーターを増やす発想が重要になるというように思います。

【司会】

どうもありがとうございました。そのほか、御意見ある方いらっしゃいますでしょうか。

【メンバー】

明日、富山大学で講義をします。これは富山県機電工業会の会長としての話です。何とかして富山大学、県立大学、富山高専の学生に、県内の企業に入ってほしいという思いでやっています。

この機電工業会の構成の7割以上が100人以下の企業ですから、学生さんたちはなかなかこうした企業を知る機会がありません。

ところが、こうした企業は大変特異な技術を持っており、特定の分野で大変すばらしい人材が集まっているので、そういう点を何とかアピールしていかなければいけないと思います。

先ほどもありましたが、企業が自らの力を磨いて、そこで働きたいと思える、そういう企業にしていかないと、富山県は産業そのものが発展していかないのではないかと思います。

もう1点、富山県が以前に県内の大学3年生にアンケートしています。「富山県で生活するうえで不便な点は何ですか、3つまで答えていいですよ」と千数百人に聞いたところ、「冬の気候が合わない」が91%、「娯楽が少ない」が66%、「公共交通機関が不便」が60%、こういう点が学生たちの不満です。これに対して企業としては何ともできないですから、公共の力を使って何とかしていかなければいけない部分もあります。

ただし、北陸新幹線を使えば2時間余りで東京へ行けるので、東京と同じような娯楽がしたければ東京へ行けばいいし、そういうアクセスを整備出来ていれば良いと思います。別に富山県が東京になる必要はないと思います。

北陸の住みやすさは日本国内有数ですから、娯楽がなくても必要ならばそこへ行けばいいし、両方できることをアピールしていけば良いのではないかと考えています。

【司会】

どうもありがとうございました。そのほか、御意見ある方いらっしゃいますでしょうか。

【メンバー】

今話を聞いて、本当におっしゃるとおりでして、私はたまたま富山市の中心に住んでいますので、コンパクトシティそのもので、ライトレールにしても何にしても、富山市っすごい恵まれているなど感じます。それで、転勤なさる方のお話とか、若い人からお年寄りの人までいろんな人の声を聞くと、転勤で来られた方は、富山はいいところだったからまた来たいとおっしゃるけど、住みたいとはあまりおっしゃいません。

今、富山駅周辺、駅前のマルトでは1か月で60万人の集客があったと今朝の新聞で見ました。そうはいつでも、金沢の立派な駅と駅周辺には絶対勝てないですよ。だから、そういうときは、金沢へ行けばいい、福井へ行けばいい、東京へ行けばいい。その中で、富山県はやっぱりいろんな中小企業があって、ものづくりに強いことが特徴だと自負しています。

そして、中小企業が一番困っているのは、後継者問題です。子供に県外で良い就職をさせた結果、子供が富山に戻ってこないのが困っています。小さい時から親の背中をみせてどんな仕事にも誇りをもっていることを子供心に覚えているものです。子供自身が人に頼ることなくふるさとを大事にする教育が大事だと思います。

【司会】

どうもありがとうございました。そのほか、御意見ある方いらっしゃいますでしょうか。

【メンバー】

お話を聞いていて私が感じたのは2点です。

働くこととか、住むこととか、いろんな意識、価値観、行動が多様になってきているので、モデルを幾つかつくっておいて、それに対応したらいいという時代ではないんだろうなというふうに思うんですね。

これまでしたことのないことを仕掛けていかないといけないというときに、今日話を聞いていて、入ってくる人、あるいは企業のニーズ、求めているものと、それから地域との間のマッチングやつなぎ役みたいなのが非常に重要であって、鳥取県の場合は関係人口

推進室でコンシェルジュだとか細かく対応されていますし、専門家のコーディネーターもおいでになるようですし、鯖江は竹部さんのようにNPOで対応されている。マッチングとかつなぎ役とか、そういうものに常にアンテナを張って、うまく展開させていく、機動力のある人たちがそこにいるかいないかが非常に重要になってくると思います。もちろん自治体でもいいですし、NPOでもいいですし、できれば複数あると良いんだろうと思います。それから、そのつなぎ役の足りないところを新しいビジネスでやってみようとか、チャレンジしてみようというようにいろんな可能性のあるところ、そこをできるだけ丁寧にニーズに対応してうまくつなげていって事業を展開していくということができないかできないかで随分違ってくるんじゃないかなと思いました。

それから、新しい拠点をたくさん作っていくことと、それをネットワークでつなげていくこと、単発ではなくて、全体としてつなげていくこと、それが非常に重要で、それができているかできていないかがやはり大きく結果に出てくるのではないかなと、継続的に、持続的につながっていくかどうかで違ってくるのかなと思いました。

もう一つは、外からの人材が入ってくるので、中の地域の人材を育てていく、刺激を与えて育てていくというふうなお話もあったと思いますけれども、やはりそれも非常に重要な視点で、うまくやれるといい話だなというふうに思いました。

【司会】

どうもありがとうございました。そのほか、御意見ある方いらっしゃいますでしょうか。

【メンバー】

ワーケーションについて森田室長に質問なんですけれども、個人的に休暇中にまで仕事したくないという感覚がどうしてもこのワーケーションという言葉が流通し始めてからあるんですけれども、先ほども出ていましたけれども、企業さんがこの点、不安でない理由は何だとお考えでしょうか。

それから、どこまでが休暇でどこまでが仕事かということが難しいかもしれないというお話が出ていたかと思うんですけれども、鳥取県の行政としては、どこまでやったら定義的にワーケーションとなるのか。例えば、休暇中にメール1本送っただけではワーケーションとは言えないと思うんですけれども、鳥取に来てどんなことをやってくれたらこれはワーケーションだという定義をしていらっしゃるのでしょうか。教えてください。

【司会】

森田様、お願いできますか。

【森田室長】

どういったものをワーケーションと言うかというのはなかなか定義が難しいところではあるんですけども、先ほどの発表の中で申し上げましたとおり、やはり企業様の中では、どうしてもワーケーションのバケーションという部分がクローズアップされて、働かれる方にとっても、例えば、休暇中に仕事はしたくないとか、そういった意識はかなり強いところもあります。

企業様側にとっても仕事と休みを切り分けることが勤怠管理上なかなか難しいというところもあるようでして、長期な休暇を取りながら働くというようなところはなかなか浸透してきていない状況があるようです。他方、今コロナ禍ということでなかなかテレワーク等で皆様が集まる機会が少ないというところがありますので、例えばチームの中で顔合わせ的なチームビルディングといったことでチームワーク、結束を強めていくというようなものでありますとか、あとは研修とか、半分業務のような形でのワーケーションを実行されているというところが傾向としてあるようです。

ですから、今後、企業様のニーズに応えられるような形でワーケーションを定義していきたいと考えています。

どこからがワーケーションなのかというのは、例えば、オンライン会議への出席、メールのやり取りをしていれば勤務しているとみなすというような感じで、企業様ごとに異なるところがありますので、一概には言えないところもあります。

ですが、現在、例えばIT関連の企業様では、テレワークを活用して全国から勤務可能というような流れがありますので、ワーケーションがこれからどこまでマーケットとして拡大するか不明な部分もありますが、私どもとしては、例えば、地域課題の解決や地域交流、地域における企業活動、SDGsの取組等といったところに寄与するものであれば、企業様にとってもワーケーションに取り組みやすいと考えており、今後、取組を進めていきたいと思っております。現時点では明確な方向性は出ていないんですが、ファミリーワーケーションと並行して進めていきたいというふうに考えております。

【司会】

どうもありがとうございました。そのほか、御意見ある方いらっしゃいますでしょうか。

【メンバー】

ワーケーションというのは、何か事故があった場合、出張で別のところに行っているわけでもないと思うので、遊びに行くのに出張費を払う人もいない、そのとき事故があったら誰の責任で、例えば、労災になるのかとか、いろんな法律上の問題はクリアになっているのでしょうか。こういう問題を先にすっきりさせてほしいということが1つあります。

もう一つ、竹部さんの取組は、とてもすばらしかったと思うんですが、これって恐らく竹部さんだからできているんじゃないのかなと。別の地域でもこんな人にやってほしいなと思ってなかなかいないので、それで今、竹部さんがいろんな勉強会もやっていて、習った生徒が戻っているいろんなところで活躍しているという話を聞いたので、もっとたくさん生徒さんをつくって、ぜひいろんなところで活躍させてほしいなと思います。よろしくお願いします。

【司会】

竹部さん、お願いします。

【竹部代表】

皆様、ありがとうございます。

私は、日本ワーケーション協会のコンシェルジュにもなっていて、CNET Japanというウェブメディアでも特集をいただいておりますが、今日、私は一切ワーケーションという言葉を使っていません。

これは、ワーケーションが企業様にほとんど浸透していない状況ですので、そこに打って出ても駄目だと思っているからです。

また、私自身がばりばり働きたい、ベンチャーマインドを持っているので、ワーケーションというものに対してあまり共感をしていないのでそこに打って出るということはありません。

日本ワーケーション協会が示している7つのワーケーションタイプがありますが、バカンスや、リラックスしながら仕事をするということだけではありません。

1つ目が休暇活用型。これを皆さまは意識されているかと思います。例えば、長崎県の五島市のように海があるとか、長野県の軽井沢のように避暑地になっているところであれば誘客が可能だと思います。また拠点移動型というタイプもありますが、これも皆さまが

認識しているワーケーションに近いと思います。その他にも会議型、研修型、新価値創造型、地域課題解決型、ウェルビーイング型がありますが、ターゲットを明確にして、自分たちが住んでいる地域はどのタイプでやっていくべきか戦略的に考える必要があります。世間のワーケーションという言葉に惑わされてしまうと危険だなというふうに思っています。

このため、私たちはワーケーションという言葉はあえて使わず、新価値創造型、地域課題解決型、研修型に集中して取り組んでいます。

【司会】

ありがとうございます。

ワーケーションは先ほど御質問のあった労災の話や、それ自体の定義、それから、どういふふうなフォーカスを当てるのかということも含めて、非常にまだまだ難しいところがあるかと思いました。

【メンバー】

前鯖江市長の牧野様に、北経連と経団連のマッチングのときにスピーチしていただいたときも、すごいパワフルな人だなと思っていましたが、その市長の陰に実は竹部さんがいたのかということがよく分かりました。

東京も分かっている鯖江も分かっている。そして若い。世の中を変えていくとき誰か推進役が必ずいるとよく言われます。その点、鯖江市というのは非常に特徴がある町であったのかなと思います。そういう方たちが切磋琢磨して、特徴を生かして頑張っていたらよくなるのかなと思います。

行政単位でいいますと、県があって市があってということなんですけど、我々がいつも申し上げているのは、切磋琢磨しながら一緒にできることは一緒にやりましょうよ。一番広いのは日本なんですけど、まず北陸ですよ。富山・石川・福井は文化のベースが一緒なので、近いですし、協力できるところは協力しましょうよということで、私どもはお手伝いさせていただいているわけです。

そこで、北陸新幹線に関して、2年後に敦賀まで開業していただくと初めて福井を通りますし、石川県で全線開通しますからありがたい話なんですけど、敦賀で止まっていたら北陸新幹線の価値は半分しかないんですよ。大阪までつないでなんぼなんです。今、北陸の方って東京に向かっているんですけど、高校卒業後、大学受験生は関西の名門よりは

東京が増えちゃったんですよ。関西の方は非常に危機感を持っていらっしゃるのが事実なんですけど、もともと北陸というのは、特に福井、石川は関西圏なので、ぜひ早くつないでいただきたいなと思います。北経連と関経連と大阪商工会議所で2年前に試算したんですが、2046年完成を2030年にしてくださいとお願いしてるんですが、そうすると1年間で2,700億円の経済効果が出る。当然、税込だって伸びますよね。ぜひ本省主計局に口添えをしていただければありがたいと思います。

また、北陸財務局の資料「7. まとめ」のところなんですけど、強みとして三大都市圏からの適度な距離というのがあるんですけど、距離は同等なんですけど、時間は短くないと駄目なんです。だから、東京はやっていただけましたから、今は新大阪まで早くつなげましょうよ。それから、北陸にとっては名古屋も大事なんです。繊維なんかでつながっていますから。名古屋へのルートをしっかり確保して、3つにらみながら北陸が発展していけるインフラが必要。インフラは地方の弱みなんです。ぱっと動けるようにしないと、ワーケーションでもテレワークでも、それから企業進出でも、やっぱり初っ端はインフラなんです。ぜひよろしくをお願いします。

【司会】

どうもありがとうございます。

そろそろお時間となりますので、意見交換のほうを終了させていただきたいと思います。活発な御意見、どうもありがとうございました。

以上